

全自者協ニュース

JAAS (Japanese Association of Autism Support)

- ・全自者協ニュース／第48号／2016年（平成28年）10月
- ・発行所＝全日本自閉症支援者協会・事務局 ☎ 072-662-8133
- ・発行人＝松上利男・編集人＝五十嵐猛・URL <http://zenjisakyoko.com>

会長就任のご挨拶



全日本自閉症支援者協会会長 松上利男

この度、前任の五十嵐康郎会長から会長職を引き継ぐことになりました松上利男でございます。

前会長五十嵐さんは、会長在任中、特に当協会の社会的使命の一つとして、自閉症スペクトラム障害のある人たちの支援に関わる人材の育成に注力され、「発達障害支援スーパーバイザー養成研修」事業を創設されました。

今年度の5月25日に参議院本会議において、「発達障害者支援法」が改正されましたが、その主な改正内容は、「基本理念として、『社会参加の確保と社会的障壁の除去』を掲げ、その実現に向けてすべてのライフステージにおいて切れ目のない支援の重要性」が位置付けられました。

この法改正における理念とミッション、ビジョンの実現のためには、障害当事者、家族の皆様の様々なニーズに対応する支援サービスの創造と支援者の支援の質の向上が求められます。

平成26年度から始まった「発達障害支援スーパーバイザー養成研修」は、時機を得た先駆的取り組みであり、この事業の創設に注力された五十嵐さんに敬意を表したいと思います。

今後は事業の継続と「研修プログラムの標準化」に向けたプログラムの開発と研修修了者に対する継続した現任研修のシステムづくりに厚生労働省をはじめ、関係団体との協働により、研究開発を進めて参る所存でございます。

当協会は、「自閉症者の人権と生きるための発達保障、自立ならびに社会参加」の実現を目的として、福祉の谷間にあった自閉症の子どもを持つ親たちの自閉症者施設建設の実践を母体として生まれま

した。

1987年に当協会が発足して、30周年を迎えますが、その間、障害福祉理念と制度の変遷や自閉症スペクトラム障害のある人たちのニーズの多様化と量的広がりという状況変化の中で、当協会加盟福祉法人・事業所の多くが、変化する制度とニーズに向き合いながら、必要とされる支援サービスの創造と地域支援システムの構築の取り組みを続けています。

今年度の総会において、変化する自閉症スペクトラム障害のある人たちのニーズと障害福祉理念・制度に対応しうる組織改革を目指し、その一歩として当協会の名称を「全国自閉症者施設協議会」から「全日本自閉症支援者協会」へと変更を行いました。

今後は、自閉症スペクトラム障害のある人たちの支援に携わる職能団体として、期待される公的責任を果たしていきたいと存じています。また、一般社団法人化を目指します。

会長としての私自身の責任は、①職能団体に相応しい社会的責任を果たせる組織体制の確立、②会員の拡大と会員ニーズに基づく活動の展開、③「スーパーバイザー養成研修プログラムの標準化」の研究、④関係団体、とりわけ厚生労働省との連携の強化、⑤世代交代に向けた組織基盤の強化であると存じています。

結びになりますが、当協会役員、会員をはじめ、関係団体皆様方の当協会活動への倍旧のご理解とご支援を賜りますように、衷心よりお願い申し上げます。

対談

『これからの全日本自閉症支援者協会の果たす役割』

平成28年6月22日の総会において、全自者協として、これまで以上に自閉症支援を中心とする社会貢献活動に取り組むことを目指して一般社団法人化する事が決定しました。そこで、新会長と副会長に対談形式にて「これからの全日本自閉症支援者協会について」語っていただきました。



五十嵐前会長…今回、一般社団法人化して大きく機構改革を目指した理由は、30周年という節目もありましたが、全自者協が国に施策を提言したり、社会的な活動を活発にしていくなためには、組織を改革しないといけないと考えたからです。そこで、自分が中心になるべきかどうか考えましたが、体調を壊したことから限界を感じており、これからは松上さんの持ち味であるネットワークを活かしてさらに前進させて欲しいと考えて、託すことにしました。松上さんとは、個人的にも数十年の長い付き合いがあつて信頼していますし、これからは松上新会長を中心として、今まで以上に全自者協が自閉症や発

達障がいの人達の生活と権利を守りながら地域で豊かに暮らす支えになることに期待するとともに、私たちの世代が一つの体制をつくって若い人に引き継ぎたいと考えています。



松上新会長…全自者協は30年前に自閉症の人達に特化したサービスがない中から、親御さん達が努力して多くの法人が施設をつくってきました。これは当時、先駆的で意義のある組織ではありましたが、30年経って、制度やニーズが変わり、社会福祉法人制度の改革が求められている中で、より公器な立場から発達障害や自閉症の人達の様々なニーズに対する役割が求められているものと受け止めています。そうした中で、自閉症の支援に特化した職能団体という強みを生かしながら、人材育成も含めて、様々なニーズに 대응していくという飛躍の時期を迎えており、自らを変えてチャレンジしなければいけない時代が来ていると思います。加盟している法人自体もさまざまな地域ニーズに引き合ってきていることから、変化することが自然の流れとも思えま

すし、それを方向づけた五十嵐さんの意志を引き継いで、全自者協の組織を新しいものに変えつつ、若い人達へのバトンタッチ、厚労省とのパイをつくっていくという、3つの役割を私は担っているものと受け止めています。

今日の結論に至るまで、執行部の方ですと議論されてきたと思うのですが、その辺については、石井さんでしょうか？



石井副会長…松上会長がおっしゃったとおり、私もニーズの変化に対応していくための組織改革が求められていることを感じています。その背景としては、箱モノとしての施設の制度化

には、箱モノとしての施設の制度化という大きなテーマがあつて、それが時代にそぐわなくなつてきているように思われます。実際に全自者協の立ち位置としても、入所施設の集まりという所にとどまると社会性をもちえないだろうし、自閉症支援者の職能団体という性格付けを明確にしていくことが求められているのではないのでしょうか。私は理事として



日本自閉症協会との関わりがありますが、以前は、日本自閉症協会を自閉症のナショナルセンターにしようという流れがありました。現在の意識としては当事者団体、保護者会という性格から抜け切れない、というか、むしろ外せないものにもなっていることを感じたので、全自者協は、職能団体としての立場から協力していくためにも、立ち位置を明確にした方が良く考えています。

五十嵐前会長…それは、私も同感です。日本自閉症協会の副会長をさせていたいただいた経験から、石井さんのおっしゃることがよく分かります。

松上新会長…そうですね、立場を整理した方が、お互いに良い関係をつくれると思います。自閉症者の地域生活を支えるために、当事者団体としての立ち位置と、職能団体としての立ち位置を明確にしながら連携していくことが大切ではないでしょうか。

三原副会長…頭ではわかるのですが、私は時代の変化についていきづらい人間であり、一つ一つ引つかかっています。実は、全自者協の副会長を続けることに迷いもありましたが、今は発達障害支援スパーバイザー養



成研修を仕上げていくために、あかりの家で研修生を受け入れながら自閉症者施設の意義に希望を見出しています。なぜなら、あかりの家ではリハビリ的ショートステイという考えで地域の重い人を積極的にショートで受け入れていますが、時代の流れの中で行動障害のある人が排除されることへの不安を抱えており、虐待防止法の背景や施設の専門性が問われる中で重い人を支援できるような深い専門性を磨く場面も、大きい流れに呑み込まれずに自閉症者施設としての役割として果たしていかなければならないと考えたからです。これからも、現場からの発信を重んじる全自者協のスタンスを守ってい

きたいと思っています。

松上新会長…私は強度行動障害支援者養成研修のプログラムの開発に研究検討委員として関わってきたのですが、その中で研修を受けた後の継続した現任研修の仕組みをつくるのがとても大切であることを申し上げてきました。同時に、五十嵐さんがすすめられてきた発達障害支援スーパーバイザー養成研修のプログラムを標準化することへの課題も共有しており、地域に向けて標準化した支援者養成の仕組みづくりを全自者協が担っていかなければいけないと受け止めています。それが全自者協にしかできない人材育成や地域貢献だとも考えており、今後、どのように標準化に向けてプログラムをつくるか、厚労省や関係する団体ともすり合わせていきたいと考えています。

五十嵐前会長…私はその所を松上さんに期待しています。本当にたのみますよ。

三原副会長…全自者協はこれまで各地域で大きな役割を果たしてきたおり、各施設がそれぞれ独自にすすめてきたノウハウを標準化していくことが必要であることは分かりますが、標準化一本やりに対しては反対です。大きな流れとして標準化に



向かっていくとしても、その周りにある専門性も同時に生かしていけるようなイメージを私は描いており、それに向けて、今後も議論していきたいと思っています。

五十嵐前会長…私も厚労省などの他の団体の意見は聞いても、我々、現場の人間としてのアイデンティティは失ってはいけなないと考えています。ここにいる人は、みんな現場出身だから、共通している思いや経験はたくさん分かり合えるのだけれども、それに合わせて、同時に誰もが納得して、理解していけるような形も提示していかなければいけませんよね。

三原副会長…確かに、標準化は避けて通れない時代になってきています。**松上新会長**…今、私たちはそれに向

けてスタートしたのだと受け止めています。

この協会は、新しく変わっても、基本的な当初の設立時の先駆性、制度がなければ作っていくというように、ニーズに向き合ってきた組織なので、これからも自閉症の人達が豊かな暮らしができるような仕組みづくりの実践と提案を続けていかなければ意味がありません。これがなくなれば、ただ単に請負業になってしまいます。これからも、実践と提案に向けて、みなさんがいろんな立場や考えで実践レベルでの議論を重ねていきたいと考えています。

五十嵐前会長…そうですね、もっと議論を深めて頑張りましょう。

松上新会長…若い人達に引き継ぐまで、頑張りましょう(笑)



平成28年度 全日本自閉症支援者協会 総会報告

平成28年6月22日(水)、TKP 横浜駅東口ビジネスセンターにおいて、全日本自閉症支援者協会総会の年次総会が開催された。

○会長挨拶

総会に先立ち、五十嵐康郎会長より挨拶があった。

4月の熊本県地震について、被災した三気の里では、本体施設は大きな被害はなかったもののグループホーム2棟は使用不能となり、建て替えを余儀なくされている。協会として見舞金67件計2,354,569円を三気の里へ振り込んだ。発達障害支援センターへも支援に行っている。三気の里松田施設長に代わって御礼申し上げる。また、見舞金とは別に救護物資を送られた会員施設もある。

改正発達障害者支援法の報告が後ほどある。虐待の問題も大きな課題である。求人数が上がっており、人材の確保も課題となっている。これらについて当会で情報交換したい。障害者自立支援法の判定ソフトの研究をして役に立ったことを憶えてい

る。

当会について一般社団法人化を提案する。執行体制を目的として常任理事会を新設したい。今後、全自者協は、自閉症の人たちを支援する職能団体として、組織を広げていく。

会員の資格も見直すことになる。国に対して発言していきたい。活発に活動すると経費がかかるので効率的な運営を図るようにしたい。当会発足30年の節目で転換していきたい。

○議事の進行

しもふさ学園小林勉施設長が議長に選出された後、事務局から委任状29施設、出席40施設であり過半数を満たしているので総会が成立していることが報告された。10件の議案が検討され、いずれも出席者の全員一致で承認を受けた。

(1)平成27年度事業報告が事務局よりなされた。

実施した事業は、①第29回研究大会神奈川大会の開催および報告集の発行②第30回研究大会函館大会の計画③会報(全自者協ニュース)の年2回発行と関連団体等へ

の送付④会員(施設・個人)名簿の作成⑤発達障害支援スーパーバイザー養成研修の実施⑥厚生労働省等の行政機関、日本自閉症協会や日本知的障害者福祉協会をはじめとした関連団体との情報交換、連携、要望活動などとなっている。

(2)平成27年度決算報告が事務局よりなされた。その後川崎市くさぶえの家の永井岳治監事より、適切に会計処理がなされていたとの報告があった。

(3)昨年の第29回研究大会神奈川大会の報告が川崎市くさぶえの家の永井岳治施設長よりなされた。300名を超える参加者があり、成功裏に終わったと報告があった。(4)会則および旅費規程の変更について五十嵐康郎会長より説明があった。

会則について一般社団法人への円滑な移行を目的として、①新名称として「全日本自閉症支援者協会」とすること②会員の対象を事業拡大に合わせて広げること③役員数を増やすことと常任理事会を

新設すること④本会則は一般社団法人化までのつなぎであること等の説明があり、旅費規程について①日を廃止すること②宿泊費を減額することの説明があった後、本件について満場一致で承認された。

(5)役員を選任について五十嵐康郎会長より説明があった。

新会長として北撰杉の子会松上利男氏、副会長として萌葱の郷の五十嵐康郎氏、新常任理事としてはるにれの里木村昭一氏、新理事として菜の花会小林勉氏、ひらきの里松本正氏、新事務局に北撰杉の子会佐々木寛昭氏を選任したいと説明があった。これについて、発達障害支援スーパーバイザー養成研修の修了者による部会の位置づけについて意見があり、グローバル会員としてこれを設置することを付帯して本件について満場一致で承認された。

(6)一般社団法人化について五十嵐康郎会長より説明があった。

今の組織形態では法人格がないため、各種助成や厚生労働省の調査研究事業が受託できない。今後これらを積極的に受けて活動を活性化していきたい。主たる事務所は世田谷の嬉泉を間借りすること

になり、将来的には専従の事務員を置きたい。会員から準会員をなくしている。定款案と今後の修正は会長および常任理事に一任することを含めて本件について満場一致で承認された。

(7)平成28年度事業計画案について事務局より提案がなされ、満場一致で承認された。

(8)平成28年度予算案について事務局より提案がなされ、満場一致で承認された。

(9)第30回研究大会函館大会について主管施設星が丘寮中野伊知朗施設長より説明がなされた。平成28年11月10日、11日の両日に函館市のフォーポイントバイシエラトン函館(旧ロワジールホテル)で「自閉症の人の合理的配慮」をテーマに開催予定となっていると報告があった。

(10)平成29年度の第31回研究大会については北信越ブロックが担当しており、主管施設に新潟太陽の村が決定している。

(11)その他
①世界自閉症啓発デーについて嬉泉の石井啓副会長より報告がなされた。

「つながる世界みんなの青い光」をテーマに開催した。シン

ポジウムは午前であり、全国の首長から先駆的な取り組みの発表をしていただいた。これに対して当事者からの感想を述べてもらったり、午後から国外からの実践報告もあり盛況な開催となった。

②高齢期対策検討委員会について同じく石井啓副会長より報告がなされた。

高齢期を迎える自閉症者をどう支援するかが課題である。現状把握するために全自者協加盟施設の50歳以上の高齢障害者についてアンケートを実施する。アンケートの協力依頼をお願いしたい。

③熊本県地震の援助について五十嵐猛広報委員長より報告がなされた。

萌葱の郷より三気の里へ震災2日後に訪問する。本体施設は無事だったがグループホームは崩れていた。木造より鉄筋のほうが耐えられるとわかった。グループホーム利用者を本体施設で受け入れるため、外部の利用者を受け入れる余裕はなかった。水が不足しており、ポリタンクも売り切れていたが何とか調達して湧き水を入れて

持って行った。小分けされたお菓子等が必要であった。援助金2,354,569円を三気の里に送金している。職員は現地で風呂も入れず現場に張り付いている状態で疲れた様子だった。電話がつながりにくく、安否確認のためメールアドレスの登録の必要性があると感じた。テントがあると避難所等で他の人と過ごしにくい人も活用できる。今後の南海トラフ地震に備えたい。

④改正発達障害者支援法について嬉泉の石井啓副会長より報告がなされた。

5月25日に参議院本会議で採択された。27年度から検討会が7回実施され、発達障害の議員連盟と総会に出席した。主な改正内容としては、すべてのライフステージにおいて切れ目のない支援の重要性が位置づけられ、基本理念に社会参加の確保と社会的障壁の除去、個々の意思決定支援などが謳われた。支援体制の課題共有、連携の緊密化を目的として都道府県指定都市に発達障害者支援地域協議会を設置することができるようになった。

⑤人材確保と定着育成について松

上利男新会長より報告がなされた。

人材の確保の方策については、法人の規模と地域性があってそれぞれ違うと考えられる。北摂杉の子会では中期計画から採用人数を予想し、その年の退職者も見込んで採用している。担当者置き、インターンシップの受け入れ、大学周り、若手職員による施設説明、内定者の辞退予防、離職者を減らすこと、強みを磨きホームページを更新して発信を続けること等の取り組みをしている。その他、短時間労働制度、求人サイト、給与保障、勤務形態、人事考課制度、管理職の登用条件等について意見が交換された。

(全自者協事務局)



【全日本自閉症支援者協会 平成 28・29 年度役員】

役職	氏名	所属	都道府県	備考
会 長	松 上 利 男	北摂杉の子会	大阪府	新
副 会 長	五十嵐 康 郎	萌葱の郷	大分県	
副 会 長	三 原 憲 二	あかりの家	兵庫県	
副 会 長	石 井 啓	嬉泉	東京都	
常 任 理 事	木 村 昭 一	はるにれの里	北海道	新
常 任 理 事	近 藤 裕 彦	檜の里	三重県	
理 事	中 野 伊知郎	侑愛会	北海道	
理 事	小 林 勉	菜の花会	千葉県	新
理 事	後 藤 博 行	横須賀たんぽぽの郷	神奈川県	
理 事	中 田 匠	めひの野園	富山県	
理 事	松 本 正	ひらきの里	山口県	新
監 事	永 井 岳 治	川崎市社会福祉事業団	神奈川県	
監 事	水 野 努	けやきの郷	埼玉県	

事 務 局	佐々木 寛 昭	北摂杉の子会	大阪府	新
-------	---------	--------	-----	---

広 報 委 員 会	五十嵐 猛	萌葱の郷	大分県	委員長
	加 藤 潔	はるにれの里	北海道	
	宇治原 誠	嬉泉	東京都	
事 務 局	勝 部 真一郎	北摂杉の子会	大阪府	

【日本自閉症協会関係】

役職	氏名	所属	都道府県
理 事	石 井 啓	嬉泉	東京都
施設部会委員	会長、副会長、常任理事、理事が兼務する		
A S J 委 員	茂手木 厚	横浜やまびこの里	
	川 名 あ き	世田谷区立下馬福祉工房	

【世界自閉症啓発デー実行委員会】

区分	氏名	所属	役割
実行委員会	石 井 啓	嬉泉	
主 催 団 体	水 野 努	けやきの郷	企画委員
	永 井 岳 治	川崎市社会福祉事業団	広報委員
	沼 倉 実	嬉泉	会場委員
	石 井 啓	嬉泉	全国対策委員

【発達障害支援スーパーバイザー養成研修実行委員会】

役職	氏名	所属	都道府県
実行委員長	五十嵐 康 郎	萌葱の郷	大分県
実 行 委 員	松 上 利 男	北摂杉の子会	大阪府
	三 原 憲 二	あかりの家	兵庫県
	石 井 啓	嬉泉	東京都
	木 村 昭 一	はるにれの里	北海道
	近 藤 裕 彦	檜の里	三重県

発達障害支援スーパーバイザーの会・意見交換会を取材してきました

平成28年7月29日(金)
 日本財団ビルにおいて、発達障害支援スーパーバイザー(SV)の会・意見交換会が開催されました。先輩SVの方にインタビューもしております。

話し合われたこと

- ・この会は全自者協の組織の中に組み入れていく。
- ・十二月二十三日に大分で全国SVの会研修会を開催する。
- ・SVとしての実績を各地域でどう積み上げていくか。
- ・日々の横のつながりをどう機能させていくか。圏域(ブロック)単位での集まりが必要ではないか。
- ・ブロック研修を進めていくことで集まりやすくなるのではないか。
- ・今日の養成研修の交流会は、ブロックごとにテーブルを囲めるようにしよう。

先輩SVにインタビュー

- ①スーパーバイザー養成研修を終了したことで自分にどのような変化がありましたか？
- ・同じように悩みながら支援に携わっている人がいるとわかって、自分も頑張ろうと思えた。
 - ・実地研修先の人と個人的なつながりが持てたことがうれしい。
 - ・現場を体験できたことが勉強になった。
 - ・実習に行けたことで、その施設の人や他の実習生など、都道府県を越えた仲間が増えた。
 - ・自分のコミュニケーション力が深まった。



- ・実習生として「やった感」が大きかった。
- ・人との出会いが広がり、最新情報を学べ、自分の視野を広げるきっかけになった。
- ・全国を見ることで、自分の余裕が広がった気がする。
- ・これはいいなと思える事業を見て、そのヒントを得ることができた。
- ②スーパーバイザーとしての自分の今後をどのように考えていますか？
- ・スーパーバイズに同行するような機会を得られるとうれしい。
- ・研修を終えたけれどまだまだ自分に自信がなく、フォローアップは

自分も含めて必要だと思う。自分の近くにネットワークをどうつくるかが課題。

- ・検査結果を読み解く力も必要だと思っている。その分野の研修も深めたい。

養成研修は受けたけれど、その後どうしたらいいのか悩まれている方もいらっしゃるかもしれませんが、まずは近くにいるスーパーバイザー仲間と集う場を持つことから始めていくのがよさそうです。会員施設のみなさんは、そうした場をどうすれば提供できるのかを考えていただければと思います。

◆名称
 発達障害支援スーパーバイザーの会
 ◆会長
 五十嵐 猛氏(大分県)
 ◆事務局
 田中 一旭氏(大分県)

発達障害支援スーパーバイザーの会では、全日本自閉症支援者協会が主催する「発達障害支援スーパーバイザー養成研修」の全課程を修了された方を対象にした継続研修や情報交換の場を設けています(平成28年9月現在の会員数56名)。

平成 28 年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修（日本財団助成）前期集合研修



平成 28 年 7 月 29 日（金）から 3 日間、日本財団大会議室（東京都港区赤坂）において、平成 28 年度の発達障害支援スーパーバイザー養成研修前期集合研修が開催されました。



上の 2 枚の写真は真剣に講義を受けておられる様子。実にすばらしい。

下の写真は「仲間を増やす」という重要なミッション（研修）を遂行中の受講生の方々の様子です。



さて、前ページをよく読まれた方はお気づきのことでしょうか。このミッションでは、ブロックごとにテーブルを囲めるようにして、まずは近くの仲間と顔見知りになれるようにしています。盛り上がってきたら違うテーブルにも移動して、より広範囲に仲間を増やしていた人たちもいました。

もちろん、ここでも果敢に（適当に？）インタビューをしております。
①自らこの研修に参加したいと職場に申し出たのですか？

・ 八割ほどの人が、自分から申し出たそうです。誤解のないように申し添えますが、残り二割の人が嫌々参加していたわけではございません。「自分に声を掛けてほしくて、行きたいオーラを出しながら待っていた」「申し出るのを控えたが、自分に声が掛かったときには『よっしゃー』と思った」という方々が残りの二割です。この点はしっかりと確かめております。

②この研修で楽しみにしていることは何ですか？

・ ほとんどの方が「実習」と答えられています。よそではなかなかできない研修メニューですし、意欲満々の受講生にとっては当然の回答かもしれません。

・ その他には、「情報交換ができること」「講座」「飲み会」という回答もありました。実り多い充実した研修となることを祈っております。

（広報委員会 加藤潔）

発達障害支援スーパーバイザーの会共催、全日本自閉症支援者協会後援によるスキルアップ研修会

支援者のスタンスについて考える

- ◆目的 家族・当事者および福祉・教育・医療・労働機関の支援者を対象に、障がい児者を取り巻く現状や情報を提供することにより、発達障がい理解と支援全体の向上を目指す
- ◆対象 福祉、保健、医療、教育、保育、行政に携わる職員および当事者、保護者
- ◆期 日 平成28年12月23日(金)
- ◆会 場 ホルトホール大分3F大会議室(大分市金池南1-5-1)
- ◆参加費 1,500円(資料代として)

定員 400名

※ 会場の都合上、申込数が定員を上回る場合は、申込みを締め切らせていただきます。

○プログラム○

9:00 9:50 10:00 12:30 13:30 14:50 15:00 16:30 17:00

受付	開会	基調講演	休憩	情報提供	休憩	シンポジウム	総会
----	----	------	----	------	----	--------	----

○基調講演○

「TEACCH アプローチの統合的な考え方」

講師：スティーブ・クルーパ氏(前フェイエットビル TEACCH センター長)

○情報提供○

「厚生労働省における発達障害施策について」

講師：日詰 正文氏(厚生労働省 発達障害対策専門官)

「イギリスにおける障害者への医療支援について」

講師：田中 恭子氏(熊本大学医学部附属病院神経精神科 特任助教)

○シンポジウム○

テーマ「全日本自閉症支援者協会が果たす役割」

指定討論者：日詰 正文 氏 (厚生労働省 発達障害対策専門官)
 釘宮 誠司 氏 (医療法人謙誠会博愛病院 理事長)
 五十嵐 康郎 氏 (社会福祉法人萌葱の郷 理事長)
 司 会：松上 利男 氏 (全日本自閉症支援者協会 会長)

○総 会○ 大分県発達障がい研究会総会

- ◆主 催 大分県発達障がい者支援センターECOAL
大分県発達障がい研究会
- ◆共 催 発達障害支援スーパーバイザーの会
大分県発達障がい支援専門員の会
大分子ども子育て支援連絡協議会
- ◆後 援 全日本自閉症支援者協会
大分県分県教育委員会、大分合同新聞社
大分県発達障がい者支援センター連絡協議会
TEACCH プログラム研究会大分支部(予定)
- ◆申 込 み 平成28年12月13日(火)までに、
申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込み下さい。
申込書はホームページからもダウンロードできます。
- ◆問い合わせ 大分県発達障がい者支援センターECOAL
TEL：097-513-1880/FAX：097-513-1890

※ 託児は行ないませんので、ご了承下さい。
 ※ 駐車場はホルトホールおよび近隣のコインパーキングをご利用ください。

発達障害支援スーパーバイザーの会 視察研修のご案内

期 日 平成28年12月22日(木)
(講演会の前日です)

定 員 10名(先着順)

研修内容

≪視察研修≫12:00~16:30

- * 社会福祉法人 萌葱の郷
 - ・自閉症総合援助センター めぶき園
 - どんこの里いぬかい
- ・豊後大野子育て総合支援センター なかよしひろば
- いぬかいこども園

≪情報交換会≫18:00~20:00

*Horuto Garden(ホルトホール大分)

平成28年熊本地震について

障がい者支援施設 三気の里
管理者 松田 健

平成28年4月14日(木)午後21:26にM6.5、最大震度7の大地震が熊本県において発生しました。しかし、それでは終わらず16日(土)午前01:25にM7.3、益城町と西原村では最大震度7を観測し、熊本県下では言葉に出来ない程の大きな被害を受けました。益城町や西原村、南阿蘇村の多くの建物は倒壊。熊本のスィンボルである熊本城は瓦が落ち、石垣が崩落、櫓が倒壊しました。南阿蘇村では地震による土砂崩れに飲み込まれて「阿蘇大橋」が崩れ落ち、三大大楼門の一つである「阿蘇神社」も柱が折れ、倒壊しました。5ヶ月経とうとしている今、がれきの撤去、仮設住宅の建設、道路の復旧等、復興作業は進んでいます。未だ地震の爪痕が信じられないほど手つかずのまま残っている地域もあります。一度見ていただくと驚かれると思います。全くの別世界であること、5ヶ月経過してもこの状態なのかと。

強の物凄い揺れに襲われライフライライは遮断、入所施設ではフロアーの繋ぎ目からはコンクリートの噴煙が上がり、トイレや水道の配管は破損、壁・階段・アスファルト舗装・運動場などに多数亀裂が入りました。最も大きな被害を受けたのがグループホームで、内装・外壁に多数の亀裂があり、窓ガラス破損(一つのグループホームではすべての窓ガラスが砕ごと吹き飛んでいました)、サッシの歪み、温水器は倒壊破損、食器類や家具等多数破損・散乱し、とても住める状態ではなかった為、入所施設に避難しました。

本震の激しい揺れと、悲鳴を上げる建物利用者だけでなく、スタッフも経験したことのない恐怖を感じたまま揺れがおさまるのを待ちました。しかし、おさまるばかりか強い揺れを伴う余震が続いた為、建物から逃げ出すことを決意しました。明け方までの余震は30回以上、暗闇のなかいつ倒壊するかわからない状況に、絶えず「死」がつきまとう避難でした。もう一度6強以上がくると

崩落するかもしれないという恐怖についてご理解いただけない点があるかもしれない。続けて2度最大級の地震があったこと、余震が2000回を超えるほどきていること。またくるかもしれないという恐怖は今も払拭することができません。尋常でない揺れにスタッフが駆けつけ、避難誘導を手伝ってくれました。建物にマイクロバス等の施設車両を横付けし、利用者を乗せてグラウンドに移動するまでに1時間10分を要しました。崩れ落ちるかもしれないという恐怖はありましたが安全を第一に考えて、ゆっくりと順番に避難させました。利用者の方が合わせにくれました。大きな声を出す人やパニックになる人はいませんでした。起きている人は居室で待ってくれていました。眠っている人は後から避難してもらおうにしました。72名の入所者(短期入所含む)に加えて、前日グループホームから避難した方15名の総員87名の方を避難させるにあたって大きな問題もなくスムーズに進みました。(もちろん職員力量にもよります。幸いにも当日中堅・ベテランが多く勤務していました。1時間以内に4名の職員も駆けつけました。)さらには一夜を明かした運動場でも、その日からの数日間のい

つもと違う環境での生活や予定通りいかない日課においても同じでした。利用者さんの持っている力はすごいと痛感しました。(全自者協の施設のほとんどがそうであるように)日中活動では散歩や作業を通じて利用者との関係性を深めていることがその成果として現れたのだとも思います。また、この震災を通じて利用者と職員が同じ被災者という立場からお互いの距離が縮まったような気がします。同じ体験をしたこと、同じ時間を長く過ごしたこと、お互いを励ましあったことによりです。利用者によつてくださったパワーをいただきました。心から感謝しています。

避難生活はライフライインが遮断され水も電気もガスも使えない状況だったので、契約している委託業者のお陰で一食も欠かさず食事提供出来ました。奇跡と言っても過言ではないと思います。応援に駆け付けるスタッフも徐々に増えていき、利用者への被災支援、水源への飲料水確保、倒壊したグループホームの荷物搬出、それぞれ休む間もなく働き、疲労は蓄積していきばかりでした。余震もおさまっていない地獄のような状況の中、県外の福祉施設から車一杯の水や食料品、ガソリン、携帯トイレ、等を目の前にして「数

日間はどうかかなる。」と安堵したことを今でも思い出します。特に、全国自閉症者施設協議会加盟施設、九州若手福祉従事者ネットワーク加盟施設の皆様にはたいへんお世話になりました。紙面をお借りして感謝申し上げます。その後も、毎日のように九州及び全国各地から福祉施設、一般の方問わず、中には小学生からの手紙が添えられたもので、たくさんさんの心温まる励ましのお言葉、支援物資や義援金等をいただき、人々との繋がりが、絆の強さ、思いやりが疲労や不安を吹き飛ばす程の強い力となり、復興の後押しになることを身を持って体験しました。

あれから4ヶ月以上経過した今、皆さまのご支援とご協力のお陰により、震災前に近い生活を取り戻しつつあり、ようやく振り返りができるようになってきました。今回の震災ではライフラインの復旧が早かった為(三気の里に関しては)、避難生活も困難を極めることはありませんでした。しかし、いつ・何が起こるか分からないという状況も想定すると、発電機や調理なしで食べられる缶詰等の食糧、最低3日分の生活用水・飲料水、コンパクトに収納できる毛布も必要だと思えます。また、今回支援物資で頂いた段ボールの組み立

て式簡易トイレは災害用品として備蓄していなかったもので、とてもありがたいと感じました。災害だけでなく、様々な状況を想定して備えをしておくことで、有事に対してスムーズな対処と安心を得られます。さらに、今回の震災で多くの支援を頂き、その迅速な対応に私たちはとても助けられました。逆の立場になった時、同様に迅速に支援に行く為の体制作りに取り掛かっています。

グループホーム2カ所と地域活動支援センター(パン工房2号店)が大規模な損壊により使用できなくなりました。全面的な建て替えが必要です。故にグループホーム2カ所8名の方の避難生活は続いています。工業者が数年先まで予約で詰まっていることなどいろんな問題がありますが一刻も早く元の生活ができるようにしていきたいと思い、最大限の努力を講じています。

多くの御恩に対してどのようにお返ししたらいいか考える中で少しでもお役に立てる方法として熊本地震の報告書を作成することとしました。11月の完成を目指して作成にとりかかりました。その折はご笑納していただければ幸いです。本当にありがとうございました。

平成28年熊本地震について、大分県からの報告

大分県発達障がい者支援センター
副センター長 田中秀征

平成28年熊本地震では大分県でも大きな揺れを観測し、被害に遭われた方も数多くいらっしゃいます。当センターでは、継続的に支援している方をはじめ、発達支援登録証に登録されている方、またペアレントメーターを受講された方への安否確認を行うとともに、大分県発達障がい者支援専門員や連絡協議会構成機関と連絡を取り合い、今後の対策について検討を行いました。

■災害時の安否確認について
相談時の登録簿が災害時の安否確認やニーズの把握に有効であるとともに、電話よりもメール等の媒体が有効であることが分かりましたので、発達支援登録証の申込書の記入欄に携帯電話やメールアドレスを尋ねる欄を設けることになりました。

■各地域の状況把握について
連絡協議会は大分県内の関係諸機関から構成されており、発達障がい

者支援専門員は各地域(圏域)で発達障がい支援に携わっていることから、連絡協議会構成機関や大分県発達障がい者支援専門員会(SVの会)とメールや電話、ホームページ等を通して、支援が必要な地域や場所の情報共有を図るようになりました。

■避難所について
一般の避難所で過ごすことが困難であったり、福祉避難所の利用情報が乏しいために車中泊をする方が少なくありませんでした。エコノミークラス症候群を予防するためにも、避難所をパーティション等で区切ることで利用しやすくなり、ポップアップテントなど設営が簡単な用具を準備することなど、平素からの備えについて啓発をすすめることになりました。

世界自閉症啓発デー2016 シンポジウム報告

第8回「世界自閉症啓発デー2016・シンポジウム」が、今年の4月9日(土)に、東京の霞が関にある全社協灘尾ホールで開催され、400名近くの参加者がありました。

今回も、「つながり」をキーワードに置きながら、メイン・テーマ、それから、2つのシンポジウムのテーマを企画致しました。まず、メイン・テーマとしては、「つながる、世界とみんなの青い光」として、「世界」という新しいテーマが加わりました。また、2つのシンポジウムは、「つながる 日本の育ちとくらし」、「つながる 海外からのメッセージ」と題して、日本の各地域での取り組みについて、自治体の首長による報告や、アジアを中心にした海外からのビデオメッセージの紹介・ゲストスピーチなどが行われました。

そして、シンポジウムの最後には、今年度も、各地域でご活躍されている当事者からのメッセージも紹介され、心温まる一ときとなりました。

それでは、シンポジウムの内容を以下にご紹介いたします。

『プログラム』

総合司会 国沢 真弓 氏

●開会式 10:00～10:40

国連事務総長メッセージ、主催者挨拶、シンポジウム開会挨拶、来賓祝辞、来賓紹介

●シンポジウム① 10:50～

「つながる 日本の育ちと暮らし」

司会

市川 宏伸 氏

(日本発達障害ネットワーク)

寺山 千代子 氏

(日本自閉症スペクトラム学会)

シンポジスト

宮本 泰介 氏

(千葉県習志野市長)

田中 誠太 氏

(大阪府八尾市長)

小口 利幸 氏

(長野県塩尻市長)

指定発言者

ソルト(ハンドルネーム)氏

村上 由美 氏

昼食休憩

●シンポジウム② 14:00～

司会

福本 康之 氏

(日本自閉症協会)

藤堂 栄子 氏

(日本発達障害ネットワーク)

海外ビデオレター

北京市自閉症児リハビリテーション協会(中国)

解説 水野 努

(全国自閉症者施設協議会)

AOA art(中国)

解説 小林 洋志 氏

(日本自閉症協会)

Smile Together Foundation,

Autism Korea(韓国)

解説 佐伯 比呂美 氏

(日本発達障害ネットワーク)

ゲスト発表

ベトナム自閉症ネットワーク協会(VAN)

Ms.Nguyen Minh Hieu(会長)

Ms.Hoant Ngoc Bich

アジア太平洋障害者センター

(APCD・タイ)

Mr.Akie Ninomiya

●閉会式 16:10～16:20

当事者メッセージ

主催者挨拶

主催者挨拶

からご挨拶をいただきました。

シンポジウムを振り返りまして、前段の①においては、昨年度のシンポジウムに登壇された首長の方々から、ご紹介をいただいた首長に、発表をいただいております。自治体から自治体への繋がりであります。発表の内容も、各地域の特性に応じてはありますが、ライフステージという繋がりと、本人・家族、地域の支援者、福祉、教育と、様々な分野との繋がりを作り始めているとのお話でありました。また、②のシンポジウムは、アジア諸国との繋がりとして、海外における自閉症に関連する様々な取り組みをビデオレターで紹介・解説、ゲストスピーカーとしてのお話をいただきました。言葉や文化は異なりましたが、尊い命をもった自閉症をもつ人たちを支え、ともに連携をし、社会参加を志す姿は、日本もアジア諸国も同じでありました。

(社福) けやきの郷 水野努

今回、シンポジウムに先がけ、主催者側からは、太田房江厚生労働大臣政務官、山崎晃資世界自閉症啓発デー2016・日本実行委員会実行委員長の挨拶、その後、来賓の高木宏壽内閣府大臣政務官、堂故茂文部科学大臣政務官、高木美千代衆議員

第 30 回 全日本自閉症支援者協会 函館大会 開催要項

1. 大会趣旨

「自閉症の方々の合理的配慮を考える」

私たちは1987年に「自閉症者の人権と生きるための発達保障、自立、社会参加の実践と研究の推進」を目的として結成され、今年30年の節目を迎えることになりました。これまでの、自閉症の方々に対する実践や研究の積み重ねは、大きな財産であるとともに、今後の自閉症の方々の豊かな暮らしを支えていくための礎になるものです。平成28年(2016年)4月より障害者差別解消法が施行され、障害者の差別禁止と合理的配慮の義務が求められました。差別の禁止と合理的配慮を実行するためには、知的障害、自閉スペクトラム症の特性を正しく理解し、社会の中で生きていくためには、どのような困難さがあるのかを知ることから始めなければならないと思います。しかし、知的障害、自閉症の方々の困難さは、一人一人違うため、画一的な配慮を前提としたものでは対応することが難しいことと思われまます。

今回の大会のテーマである、「合理的配慮を考える」ということは、まさしく自閉症の方々が豊かに暮らせる社会を作り上げるために、私たちは何を行わなければならないのか?をいま一度基本に戻り考えるきっかけとしていきたいと思ひます。

2. 主催 全日本自閉症支援者協会

3. 担当 東北・北海道ブロック施設
 主管 星が丘寮・ねお はろう

4. 後援 北海道 函館市 北斗市 七飯町 社団法人日本自閉症協会 北海道自閉症協会
 公益財団法人日本知的障害者福祉協会
 一般財団法人北海道知的障がい福祉協会 南北
 北海道知的障がい福祉協会

5. 期 日

平成28年11月10日(木)~11日(金)

6. 会 場

フォーポイントバイシェラトン函館(旧ロワジュールホテル)(函館駅より1分)

函館市若松町14番10号

TEL 0138-22-0111 fax 0138-23-5292

7. 参加対象者

全国自閉症支援者協会会員施設職員
 知的障害者関係施設職員
 家族(保護者) その他の関係機関職員

8. 日 程

1日目:11月10日

開会式 13:00~13:30

表彰式 13:30~14:00

行政説明 14:00~14:50

厚労省 発達障害専門官

熊本震災報告 14:50~15:20

三気の里 松田施設長

基調講演 15:30~17:20

「自閉症の方々のコミュニケーション支援」

京都市児童福祉センター副院長

児童精神科医 門 眞一郎 氏

情報交換会 18:00~20:00

2日目:11月11日

シンポジウム 9:30~11:30

「自閉症者に求める合理的配慮とは」

シンポジスト

加藤 潔 氏 (はるにれの里)

星明 聡志氏 (北摂杉の子会)

五十嵐康郎氏 (萌葱の郷)

進行

松上 利男 氏

(全日本自閉症施設協会会長)

閉会式 11:30~11:45

分科会 13:00~16:00

終了 16:00

9. 大会事務局

(社福) 侑愛会 星が丘寮、ねお・はろう

〒049-0282 北海道北斗市当別697番地

TEL 0138-75-2178 Fax 0138-75-3466

mail: hoshigaoka@yuai.jp

担当: 中野、夏目

自閉症スペクトラムのための総合保障のご案内

今から加入をお考えの方へ

◆保障内容(概要) ・詳細はお問い合わせ下さい。パンフレット等をお送り致します。

病気やケガでの入院、ケガでの通院、個人賠償補償がセットされています！
(年度途中で加入は加入希望月の前月20日が申込締切となり、翌月の1日から加入となります)

【ASJ保険】	【AIU普通傷害保険】
<p>病気やケガ・検査により、入院を開始した2日目から次の保険金をお支払いします。</p> <p>●入院保障金 1会計年度30日まで</p> <p>・付添介護費用 1日 8,000円 (必要と認められた1日6時間以上の付添いが対象)</p> <p>・差額ベッド費用 1日 5,000円までの実費</p> <p>・入院臨時費用 1入院 5,000円</p> <p>・入院諸費用 1日 1,000円</p> <p>●死亡弔慰金 5万円 (死亡弔慰金の受取人は法定相続人となります)</p>	<p>ケガでの入院、通院を初日から補償します。</p> <p>●本人の傷害(ケガ)の補償</p> <p>・入院 (730日まで) 1日 3,000円</p> <p>・手術 (1事故あたり1回まで) 3万円～1.5万円</p> <p>・通院 (90日まで) 1日 1,500円</p> <p>●死亡保険金 229万円 (受取人は法定相続人となります)</p> <p>●後遺障害保険金 229万円～9.16万円 (障害の程度に応じて)</p> <p>●他人への損害賠償(対人・対物)</p> <p>・1事故支払限度額 最高5,000万円まで補償</p>

※詳細についてはパンフレットをご覧ください。



自転車事故で法律上の損害賠償責任を負った場合も対象になります！

●途中加入掛金 (加入希望月前月20日が申込受付の締切です)

会 員 種 別	11月1日加入	12月1日加入
◆加入プランA (年間掛金15,900円) 日本自閉症協会正会員(加盟団体)の構成個人会員	6,920円	5,630円
◆加入プランB (年間掛金16,400円) 自助会員(上記以外の方は申し込みにて自助会員となります)	7,420円	6,130円

《 よくあるご質問 》

- Q. 持病がありますが加入できますか？
A. ご加入いただけます。また既往症による入院も給付対象です。
- Q. 検査入院、虫歯、親知らずの治療で入院した場合は給付対象ですか？
A. いずれも給付対象です。1泊2日以上入院で、2日目から給付対象になります。

◆ お問い合わせ・お申し込み先 ◆ ☎ 03-5565-2020

ASJ保険
事務局

〒104-0044 東京都中央区明石町6-22 築地ニッコンビル 6F
一般社団法人 日本自閉症協会内

FAX 03-5565-2021 営業日 月～金(土・日・祭日除く)10:00～16:00

E-Mail : asj-hoken@autism.or.jp ホームページ : http://www.autism.or.jp

各種お問い合わせ、保障内容のご確認、ご請求、ご相談等は上記までご連絡下さい。

◆2016年10月1日より フリーダイヤル:0120-880-819 になります！◆